

# 世界で勝ち抜ける日本をつくる

**玉木** 一方で国産ワクチンの開発が遅れ、治療薬が未だに承認されないという問題もある。日本が科学技術をないがしろにしてきたことが問題です。

**佐藤** 科学技術やイノベーションは常に人とセットです。人をつくるところに何十年もお金をつぎ込んでこなかったツケが、今まわってきている。日本の国際競争力というか、日本の国力を取り戻すためには、未来に対する投資を続けていくしかないですね。

**玉木** 私たちが訴えている「子供国債、教育国債」を発行して、教育や科学技術人づくり、イノベーションに今の倍の予算を付けるくらいのことをやらないと間に合わない。我々が卒業してからの二十五年の衰退をさらに二十五年続けたら、日本は今度こそ終わってしまう。もちろん単に反対だけの政治ではダメで、強い危機感の中で政治が責任を果たしていかなくてはいけない。



NEW JAPAN 2050

## 玉木雄一郎×佐藤やすき対談

# 日本の政治を進化させたい



### ■ 出会い

**佐藤** 玉木さんは大学のゼミの先輩で、米国ハーバード大学留学でも席を並べました。

**玉木** 一緒に学んだケネディスクールで、「このままじゃ日本はダメだ」とって危機感を持ったけれど、今その通りになっている。例えばこの二十五年間、日本の実質賃金指数は下がっています。

**佐藤** 他の国では実質賃金が上がっていますが、日本だけが下がっていますね。

**玉木** 日本の一人あたりGDP(国内総生産)もかつてはトップテンに入っていたのが、今は世界で二十六番目。IMD(国際経営開発研究所)の国際競争力ランキングも、一位だったのが今は三十四位。

**佐藤** この間日本の劣化が進み、加速度的に悪化しています。

### ■ 政治の責任

**玉木** ケネディスクールで最初に受けたのが感染症の授業でした。パンデミックが発生。開発したワクチンで死者が出るかもしれないけれど、何百万人、何千万人を守ることも可能ならば、ワクチン接種を選択しなければならぬ。当時は極めて冷徹な判断だと感じたけれど、現実にはコロナ禍です。こつちを取るとあつちを取れないのに、どつちにもいい顔しようとして政府の判断が遅れることになっていきますね。

**佐藤** ケネディスクールは政治家や官僚といった政策実行責任者を養成する大学院だからこそ、政策実行の判断の難しさや厳しさを学びました。私は「国民に寄り添う政治」が必要と常々言っています。痛みを共有し、現実的に実現可能な政策をギリギリのところまで判断していくことだと思っています。

**玉木** 政治の役割は決断することとその

結果に責任をとること。この二つしかないのに、今はどちらもできていない。例えば一時的に借金を大きく増やしても、休業補償を万全にするから休んでくれという選択で決断できない。中途半端な財政再建にこだわって、財政出動が弱くなれば、十分に感染症が治まらない。

**佐藤** 日本が先進国の仲間入りをして欲しいですが、経済や社会に比べて政治は全く成熟していません。時代遅れの日本の政治を、若者からも共感を得られる新しい政治に進化させなくてはなりませんね。

### ■ 政治家の覚悟

**玉木** その為に必要なのは政治家の覚悟です。今はサラリーマンの延長みたいな政治家ばかりになって、次の世代のことよりも次の選挙にしか関心がない。選挙に通る通らないの次元ではなく、この国の問題点を的確に訴え、国民を巻き込んだ運動に抜けていく。これがダメならこつちではなく、苦しくても辛くても問題意識を持って死に物狂いで、それを訴えて世の中を変えていこうとする政治家の覚悟と度量が必要ですね。

### ■ コロナ対策

**佐藤** 今の与党のやり方は旧態依然です。それに対して、私たち国民民主党が示すべき対立軸は、「時代にふさわしい政治」「新しく進化した政治」ではないでしょうか。

**玉木** その通りです。実際、私たちが訴えてきた政策を半年前からやっています。コロナ対策もうまくいっているはずなのに、今自分が総理大臣ではないことが本当に悔しいですね。

**佐藤** そのためには選挙に勝たないといけません。政権を取らないと自分たちの政策ができません。日本はこのままじゃダメだという危機感、覚悟をどれだけ共有できるかにかかっています。

**玉木** 死に物狂いで訴え続けるしかない。国民民主党という小さな政党で、「時代にふさわしい政治」「新しく進化した政治」をめざして次の選挙に臨んでいる。打算を超えた政治家。ある意味「バカ」が集まらないと世の中は変わらない。

今の政治家は、「ステイ・ハングリー」の言葉を借りれば、「ステイ・ハングリー」でも「ステイ・フリーリッシュ」でもなくなっている。

www.satoyasuki.jp

**佐藤** 今、ここだけは絶対に借金してお金をつぎ込んでやらなければならぬのはどういふ点ですか。

**玉木** 何よりも今はコロナ対策。感染を抑えられないまま、何回同じことを繰り返しているんだと、ワクチン接種が遅い。オリンピックをやっても大丈夫と言いなから感染が増え続ける。挙句の果てに入院できる人を制限する。後手後手でお粗末すぎる。

**佐藤** 国民民主党は病床確保を訴え続けていますが、それを放置したままで病床逼迫に至っている。国民の命を守れない政治なんて、存在する意味がありませんね。

**玉木** 責任を取るの嫌だから決断できない日本。この点は戦前から続いている。第2次世界大戦でも大きな決断をせずに戦力の逐次投入になって、効果を発揮しないまま税金だけ使ってダメになっています。今まさに同じことが起こっていますね。

### ■ 人づくり

**玉木** 私たちが訴えている「子供国債、教育国債」を発行して、教育や科学技術人づくり、イノベーションに今の倍の予算を付けるくらいのことをやらないと間に合わない。我々が卒業してからの二十五年の衰退をさらに二十五年続けたら、日本は今度こそ終わってしまう。もちろん単に反対だけの政治ではダメで、強い危機感の中で政治が責任を果たしていかなくてはいけない。

### ■ ニュース

**佐藤** 私も香川へ伺いましたが、二〇〇九年総選挙で初当選された玉木さんから「お前が来てくれるのを待っているから」と言ってもらったのが、今の自分につながっています。

**玉木** 佐藤くんは国連や欧米の投資銀行、世界のインフラ開発投資などで培った経験があるから、国際的な感覚には大いに期待している。ただし、「政治家は鳥の目と蟻の目の両方を持つ」とよく言われる。

**佐藤** 国全体、世界全体を広く俯瞰して見る目はもちろん必要ですが、国民のリアルを注視し、現に困っている人、救わなければならない人の声にもしっかりと耳を傾けることが大切ですね。



こくみん民主党  
Democratic Party For the People

**玉木** 大きな視点と小さな視点の両方を兼ね備えた、将来の国民を含めた日本のための政治を実現できる政治家になつてもらいたいね。

**佐藤** ありがとうございます。自分の政治信条である「国民に寄り添う政治」の実現に向けて、一生懸命がんばります。